

令和 6 年度 再評価調書

令和6年度 京都市公共事業評価(再評価)事業調書

No. 1

1 事業の概要

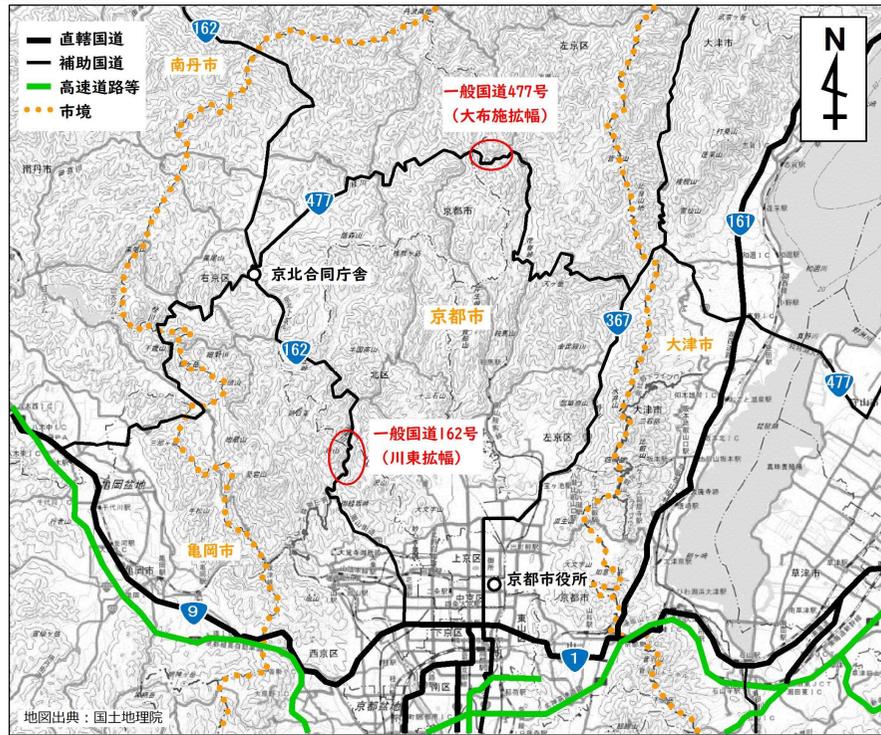
担当: 建設局道路建設部道路建設課

事業名	道路事業 一般国道477号(大布施拡幅)	事業区間	京都市左京区花脊大布施町 ～ 京都市左京区花脊大布施町
事業の目的 及び概要	安心安全な道路環境の整備 一般国道477号は、三重県四日市市から大阪府池田市に至る道路であり、京都市内においては、左京区及び右京区京北を經由しており、緊急輸送道路に指定されている一般国道162号、367号を結ぶ東西の道路として重要な路線である。 本事業は、大布施地区の延長2,195mの整備を行うもので橋梁4橋及びトンネル1箇所の新設を行い、幅員が狭い箇所や線形不良による見通しが悪い箇所を解消するとともに、防災点検箇所(要対策箇所)の整備を進めることで、安全で円滑な道路交通を確保することを目的としている。		
	延長又は面積: L=2,195m	代表的な幅員: W=9.0m	用地買収面積: A=23,182m ² 全体事業費: C=45.3億円

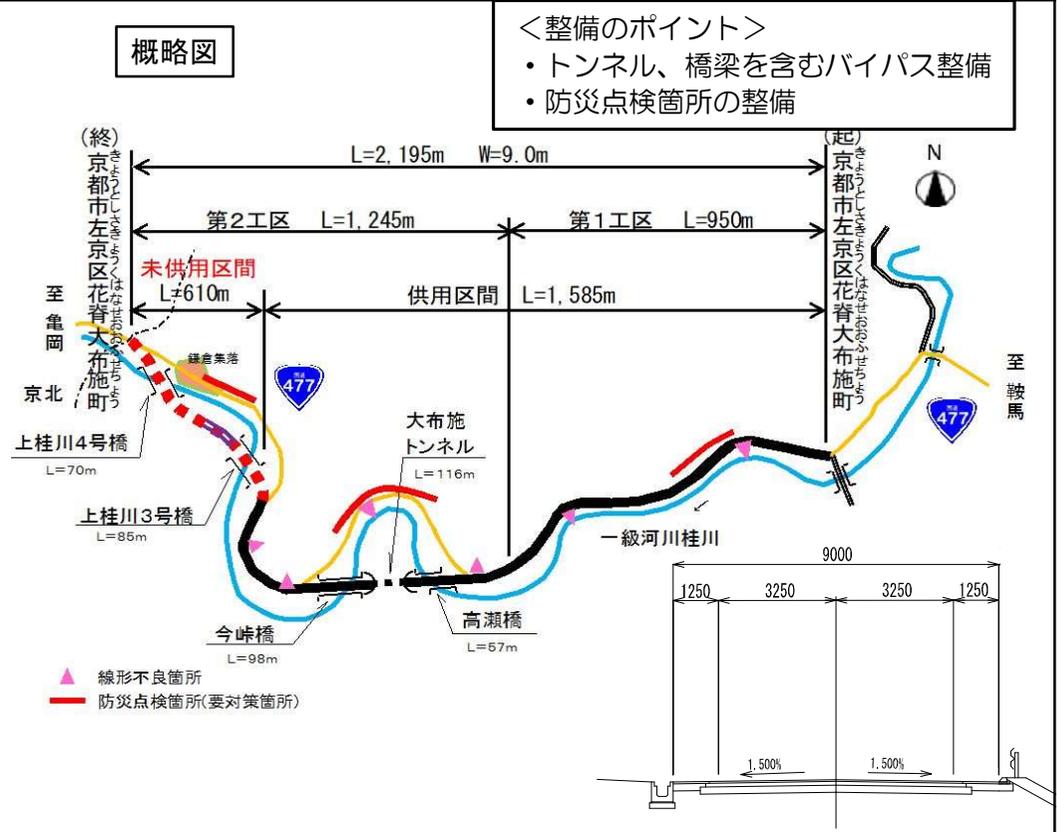
＜主な事業効果＞

- 安心安全な道路環境整備
- 災害時のリダンダンシー※確保
※多重化、代替手段・備えがある状態

箇所図



概略図



2 事業の必要性等に関する視点

道路事業 一般国道477号(大布施拡幅)

(1) 事業の進捗状況

都市計画決定	—	全体事業費		45.30 億円	令和4年度まで (決算額)	令和5年度 (決算見込み)	令和6年度 (予算額)	令和7年度以降	進捗率(実施数量) 完了/全体
事業採択	平成2(1990)年度	(内訳)	工事費	38.18 億円	23.67 億円	0.00 億円	0.00 億円	14.51 億円	道路整備 72.2 % 1,585m/2,195m
用地着手	平成2(1990)年度		用地費	2.75 億円	2.65 億円	0.00 億円	0.00 億円	0.10 億円	用地買収 95.0 % 23,182m ² /24,395m ²
工事着手	平成2(1990)年度		その他 (設計費等)	4.37 億円	4.17 億円	0.00 億円	0.00 億円	0.20 億円	—
完成予定	当初 平成11(1999)年度 変更 未定	年度別事業費		—	30.49 億円	0.00 億円	0.00 億円	残事業費	—
		進捗率 (執行事業費)		—	67.3 %	67.3 %	67.3 % (見込み)	14.81 億円	
進捗状況 事業計画の変更等	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年度までに全事業区間の72%(1,585m/2,195m)が完成し、現道の線形不良解消(完成区間:第1工区950m(H17.1)、第2工区635m(H22.9) 未供用区間:第2工区610m) 平成24年度「道路整備事業の見直し」に基づき事業進捗の見送り 平成29年度「今後の道路整備事業の進め方」に基づき事業進捗の見送り 								

(2) 事業を巡る社会経済情勢や地域状況等の変化

<ul style="list-style-type: none"> 近年、豪雨等の自然災害が増加する傾向にあり、防災対策の重要性が増している。 京都市地域防災計画(原子力災害対策編)において、原子力災害時の避難経路に指定されている。

(3) 上位計画における事業の位置付け等

計画名	事業の位置付け(事業によって推進する施策・取組)
はばたけ未来へ！京プラン2025(京都市基本計画)	都市の活力・レジリエンスの向上に向けた道路整備(政策分野25)
京都市都市計画マスタープラン	災害時における避難や緊急輸送の機能を確保するため、幹線道路ネットワークを充実し、都市のレジリエンスを向上
京都市左京区基本計画(令和3年～令和7年)	都市の活力・レジリエンスの向上に向けた、道路整備等、自然災害による被害軽減に取り組む

(4) 指標による評価

(便益と費用の単位:億円)

事業の投資効果	費用便益分析 (B/C) = 0.95	便益(B) = 61.30	費用(C) = 64.60
---------	---------------------	---------------	---------------

3 事業進捗の見込みの視点

<p>事業の実施のめど 進捗の見通し等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年3月に定めた「今後の道路整備事業の進め方」(R6に期間延長)において事業実施路線には選定されておらず、事業進捗を令和7年度まで見送っている。 既に全工区の内、95%の用地買収が完了しているが、今後も収支均衡の財政運営を図りながら取り組む必要があるため、当面、当該事業における未供用区間の進捗を図ることが困難となっている。
-----------------------------	--

4 対応方針案

※該当する項目は、□を■に変更

<p>対応方針</p>	<p><input type="checkbox"/> 事業継続 <input type="checkbox"/> 事業中止 <input checked="" type="checkbox"/> 事業休止 <input type="checkbox"/> 事業再開</p>
<p>理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> 供用区間は、事業区間の約7割を占め現道の線形不良を解消し、防災点検に基づく法面の要対策箇所3箇所のうち2箇所の道路改良は完了している。 道路幅員が狭い箇所が残る未供用区間においては、要対策箇所1箇所が存在していることから事業の必要性は高い。 しかしながら、限られた予算の中、優先順位をつけ事業を進めており、本事業は当面事業進捗を図ることが困難な状況であり、事業休止は妥当である。 なお未供用区間については、要対策箇所を含め、日々のパトロールを行うとともに、必要に応じて対策を実施する等、利用者の安全確保に向けた取り組みは実施していく。

【参考資料等】



①
今峠橋と
大布施トンネル



②
第2工区
未供用区間



③
第2工区
未供用区間の
現道状況

《客観的評価指標》

道路事業 一般国道477号(大布施拡幅)

(1) 京都市基本計画における政策の体系と政策分野

※■は、下の(2)で有効と判断する評価指標がある政策分野

うるおい	■ 環境	<input type="checkbox"/> 人権・男女共同参画	<input type="checkbox"/> 市民生活とコミュニティ	■ 市民生活の安全	<input type="checkbox"/> 文化	<input type="checkbox"/> スポーツ	
活性化	<input type="checkbox"/> 産業・商業	<input type="checkbox"/> 観光	<input type="checkbox"/> 農林業	<input type="checkbox"/> 大学	<input type="checkbox"/> 国際		
すこやか	<input type="checkbox"/> 子ども・若者支援	<input type="checkbox"/> 障害者福祉	<input type="checkbox"/> 地域福祉	<input type="checkbox"/> 健康長寿	<input type="checkbox"/> 保健衛生・医療	<input type="checkbox"/> 学校教育	<input type="checkbox"/> 生涯学習
まちづくり	■ 危機管理・防災・減災	<input type="checkbox"/> 歩くまち	<input type="checkbox"/> 土地・空間利用と都市機能配置	<input type="checkbox"/> 景観	<input type="checkbox"/> 建築物	<input type="checkbox"/> 住宅	■ 道と公園・緑
	■ 消防・救急	<input type="checkbox"/> 暮らしの水					

(2) 事業の効果や必要性を評価するための指標 《道路・街路事業》

※該当する指標は、□を■に変更し、指標チェックの根拠を記入
計画変更等により、チェックが外れる場合は、■を□に変更し、外した理由を記入

政策分野とキーワード			指標(期待される効果) ※赤字は主要項目	指標チェックの根拠又は外した理由
うるおい	環境	環境の保全・回復	■ 自動車からのCO2(二酸化炭素)、NOX(窒素酸化物)、SPM(浮遊粒子状物質)の排出量削減	排出量の削減が見込まれる
			<input type="checkbox"/> 自動車からの騒音の低減効果	
			<input type="checkbox"/> 市街地における雨水浸透を推進、ヒートアイランド現象の緩和や健全な水循環系の回復に寄与	
			<input type="checkbox"/> 都市の緑化を推進、ヒートアイランド現象の緩和や地球温暖化防止に寄与	
市民生活の安全	交通事故防止の推進	<input type="checkbox"/> 人と車両との分離等、安全な歩行空間を確保		
		■ 走行位置の整理や見通し不良・視認性の改善等、交通安全性が向上	線形不良の改良	
活性化	観光	京都観光の振興	<input type="checkbox"/> 主要な観光スポットへのアクセスが向上	
			<input type="checkbox"/> 観光に関わる利便性向上やイメージアップ等、京都観光の振興に寄与	
すこやか	障害者福祉	ユニバーサルデザインの普及促進	<input type="checkbox"/> すべての人にとって安心・安全で利用しやすい、バリアフリーな公共施設を提供	
	学校教育	通学路の安全対策	<input type="checkbox"/> 通学路・児童の移動経路における交通安全性が向上、または新たな経路として利用	
	危機管理・防災・減災	地域防災力の向上	■ 避難所・緊急避難場所・広域避難場所・避難救助拠点へのアクセスが向上	周辺に指定緊急避難場所あり(花脊小中学校)(水害・土砂災害)
			<input type="checkbox"/> 緊急輸送道路としての信頼性(災害時における安定的な通行等)が向上	
			■ 主要な道路の通行止め時、代替道路として利用(リダンダンシー※の確保) ※多重化、代替手段・備えがある状態	国道162号、367号の代替道路
			<input type="checkbox"/> 事前通行規制区間(大雨による通行止め)等における通行止めの発生リスクの低下	
	歩くまち	公共交通優先のまちづくり	<input type="checkbox"/> 鉄道駅・バスターミナルへのアクセス向上や交通結節機能の強化等、公共交通利用を推進	

まちづくり		歩いて楽しいまちづくり	<input type="checkbox"/> 路線バスの時間信頼性(定時運行)の向上や新路線の設置等、バスの利便性が向上	事業区間はバス路線でない。
		自転車利用環境の向上	<input type="checkbox"/> ゆとりある歩道幅員や路面の整備等、快適な歩行空間を提供	
			<input type="checkbox"/> 歩行者との分離や走行位置の見える化等、自転車の走行快適性が向上	
	土地・空間利用と都市機能配置	土地利用の促進	<input type="checkbox"/> 沿道での開発等、土地利用の促進	
		魅力と活力のある都市づくり	<input type="checkbox"/> 地域資源の活用等、特色あるまちづくりに貢献	
	景観	景観の保全・創出	<input type="checkbox"/> 景観を阻害する要因の除去や自然・歴史的な景観との調和等、良好な景観の保全・創出	
	道と公園・緑	円滑な移動・輸送の確保	<input checked="" type="checkbox"/> 幅員狭小・離合困難な箇所等の解消、または当該箇所の回避が可能	バイパスの整備
		都市環境の向上	<input type="checkbox"/> 地域の主要渋滞箇所における渋滞緩和等、交通の混雑状況を改善	
			<input checked="" type="checkbox"/> 高速道路・国道等と連携した広域的な道路ネットワークを形成、または補完路として利用	国道162号、367号を結ぶ路線
			<input type="checkbox"/> 移動時間の短縮・ばらつき(渋滞による遅延等)の縮小等、到着時間の信頼性が向上	
		<input type="checkbox"/> 重要物流道路の整備等、安定的な物流・輸送の確保に寄与		
		<input type="checkbox"/> 自動車交通の分散・転換や渋滞緩和等、生活道路に流入する通過交通を抑制		
		<input checked="" type="checkbox"/> 歩行者との分離や路面の整備等、自動車の走行快適性が向上	線形改良	
		<input checked="" type="checkbox"/> 地域の主要な施設(区役所等の公共施設や大規模な生活利便施設等)へのアクセスが向上	周辺に花脊出張所あり	
消防・救急	安心・安全なまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 救急医療施設(二次)へのアクセスが向上	京北病院	
		<input type="checkbox"/> 袋路や細街路、密集住宅地等で、消防・救急活動に支障がある地域の解消		
		<input type="checkbox"/> 火災時の延焼遮断帯としての効果		
くらしの水	雨に強いまちづくり	<input type="checkbox"/> 市街地における雨水浸透を推進、雨水の流出を抑制		
その他の効果や必要性 (事業特有の効果・新たな指標の追加等)		<input type="checkbox"/>		
		<input type="checkbox"/>		
		<input type="checkbox"/>		
特記事項				

《費用便益分析(B/C)》

※該当する項目は、□を■に変更

事業名	道路事業 一般国道477号(大布施拡幅)
B/C算出	<input type="checkbox"/> あり(実施) <input checked="" type="checkbox"/> なし(省略または算出不可)

B/C算出: 前回評価時点から事業の効果・必要性・周辺環境に変化がなく、事業費の増加が10%以内の場合はB/C算出を省略、再評価の効率化を図る
(省略の場合、下の(1)～(4)は前回評価時点の内容)

(1) 算出条件

基準年	令和元年
供用年	令和13年
対象期間	事業採択～供用後50年
算出手法	費用便益分析マニュアル

基準年: 評価実施年度

(2) 費用(Cost)

(単位: 億円)

	税込み	税抜き	現在価値
事業費	45.3	42.6	63.7
維持管理費	1.5	1.4	0.9
合計 (C)			64.6

現在価値: 将来又は過去(対象期間)における金銭の価値を現在(基準年)の価値に換算した額(税抜き)

(3) 便益(Benefit)

(単位: 億円)

便益額	99.0
現在価値 (B)	61.3

便益額: 事業実施に伴う各種効果のうち、現時点での知見により、計測及び金銭表現が可能な効果(便益)の対象期間における合計額

特記事項(B/C算出不可の理由等)

--

(4) 費用便益比

B/C	0.95
-----	------

令和6年度 京都市公共事業評価(再評価)事業調書

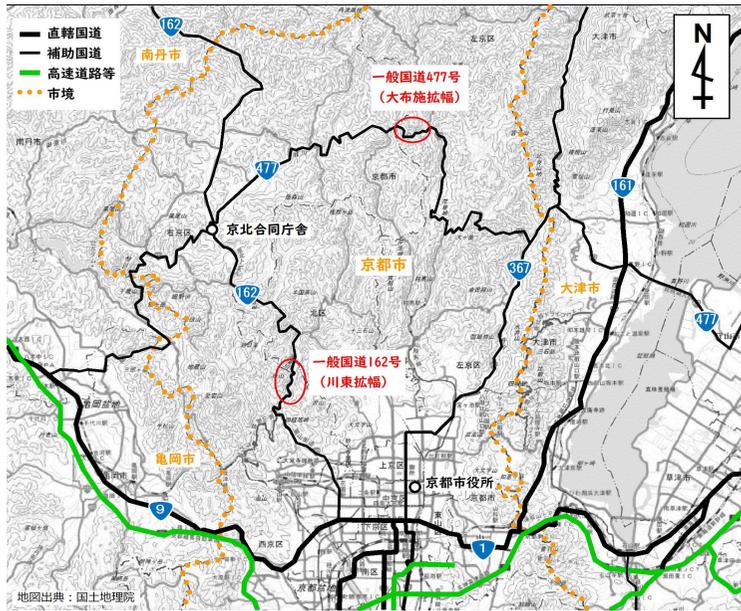
No. 2

1 事業の概要

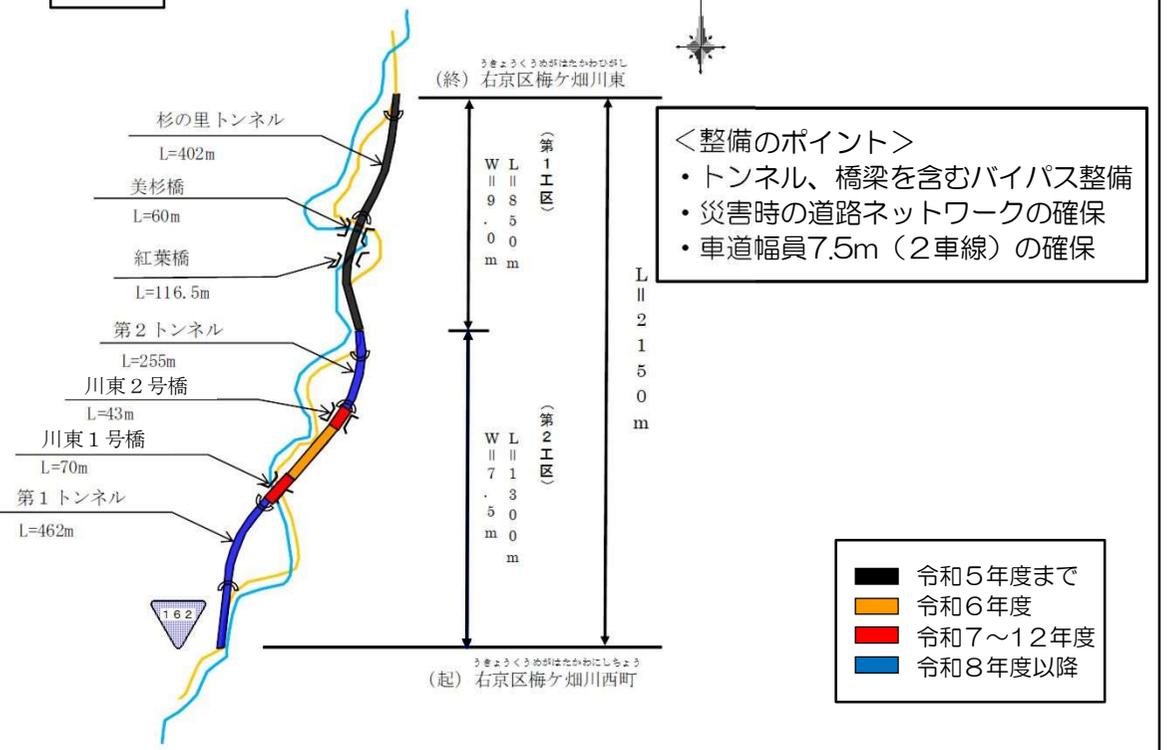
担当：建設局道路建設部道路建設課

事業名	道路事業 一般国道162号(川東拡幅)	事業区間	京都市右京区梅ヶ畑川東 ～ 京都市右京区梅ヶ畑川西町
事業の目的及び概要	<p>右京区京北と京都市街地を結ぶアクセス道路の整備</p> <p>一般国道162号は、京都市内の一般国道9号(西大路五条)から福井県敦賀市に至る幹線道路であり、右京区京北と京都市街を結ぶアクセス道路として重要な路線である。本事業は、延長2,150m(第1工区850m 平成20年3月供用開始済、第2工区1,300m)で橋梁4橋及びトンネル3箇所の新設を行い、落石等の災害防除を必要とする箇所や線形不良による見通しが悪い箇所を回避するバイパス構造とし、安全で円滑な道路交通を確保することを目的としている。</p>		<p><主な事業効果></p> <ul style="list-style-type: none"> 安全で円滑な通行環境整備 災害時のリダンダンシー※確保 京都市内と京北地域のアクセス向上 <p>※多重化、代替手段・備えがある状態</p>
延長又は面積：L=2,150m		代表的な幅員：W=7.5m～9.0m	用地買収面積：A=19,987.24m ² 全体事業費：C=107.12億円

箇所図



概略図



2 事業の必要性等に関する視点

道路事業 一般国道162号(川東拡幅)

(1) 事業の進捗状況

都市計画決定	-	全体事業費		107.12 億円	令和4年度まで (決算額)	令和5年度 (決算見込み)	令和6年度 (予算額)	令和7年度以降	進捗率(実施数量) 完了/全体
事業採択	平成12(2000)年度	(内訳)	工事費	94.16 億円	32.97 億円	2.73 億円	1.27 億円	57.19 億円	道路整備 39.5 % 850m/2,150m
用地着手	平成13(2001)年度		用地費	1.62 億円	1.25 億円	0.03 億円	0.00 億円	0.34 億円 (電柱移設費)	用地買収 100.0 % 19,987.24m ² /19,987.24m ²
工事着手	平成14(2002)年度		その他 (設計費等)	11.34 億円	4.49 億円	0.12 億円	0.07 億円	6.66 億円	—
完成予定	前 令和10(2028) 変更 令和12(2030) 年度	年度別事業費	—	38.71 億円	2.88 億円	1.34 億円	残事業費	—	
		進捗率 (執行事業費)	—	36.1 %	38.8 %	40.1 % (見込み)	64.19 億円		
進捗状況 事業計画の変更等	<p>・前回再評価時(令和元年度)の対応方針:「未完成の第2工区には、落石等に備えた災害防除が必要な区間や、線形不良及び幅員狭小な区間が残されており、第一次緊急輸送道路としての防災機能の強化と、安全かつ円滑な通行の確保が必要であることと、本事業区間の整備により、京都市街地と京北地域とのアクセス性が向上することから、農林業や観光業の振興にも寄与するものと期待されるため事業を継続する。」</p> <p>・令和4年度までに事業に必要な用地はすべて取得し、令和5年度末までに川東1号橋と2号橋の間のバイパス道路山側の法面保護工事が完了した。今後は、現道とバイパス道路との高低差を解消するための補強土壁、橋りょう、トンネル工事へと順次工事の進捗を図っていく。</p> <p>・令和3年度に橋りょう等の設計基準改定に伴う修正設計を実施した。今後も各種基準改定内容等に注視し、改定内容によっては修正設計を実施することで、より信頼性の高いバイパス道路整備を目指していく。</p>								

(2) 事業を巡る社会経済情勢や地域状況等の変化

<p>一般国道162号は、災害直後から、避難・救助をはじめ、物資供給等の応急活動のために、緊急車両の通行を確保すべき重要な道路である「第一次緊急輸送道路」に指定されているが、本事業の未供用区間である第2工区(L=1、300m)には、落石等に備えた災害防除の対策を必要とする箇所が6箇所存在する。</p> <p>近年、豪雨等による自然災害が増加傾向にあり、令和2年7月の豪雨では事業予定地内の法面が崩落し7月8日から11日にかけて4日間の通行止めとなった。土砂災害による通行止めにより、市民生活に多大な影響が発生していることを鑑み、本事業の重要性は増している。</p>

(3) 上位計画における事業の位置付け等

計画名	事業の位置付け(事業によって推進する施策・取組)
はばたけ未来へ！京プラン2025(京都市基本計画)	都市の活力・レジリエンスの向上に向けた道路整備(政策分野25)
京都市都市計画マスタープラン	災害時における避難や緊急輸送の機能を確保するため、幹線道路ネットワークを充実し、都市のレジリエンスの向上を図る
京都市国土強靱化地域計画	「今後の道路整備事業の進め方」に基づく道路整備(山間部における通行環境の改善、緊急輸送道路の通行機能の確保等)
京都市右京区基本計画(令和3～令和7年)	地域の生活基盤の強化、産業や観光といった地域の活性化に寄与する。

(4) 指標による評価

(便益と費用の単位:億円)

事業の投資効果	費用便益分析(B/C)	=	1.55	便益(B)	=	197.64	費用(C)	=	127.78
---------	-------------	---	------	-------	---	--------	-------	---	--------

3 事業進捗の見込みの視点

事業の実施のめど 進捗の見通し等	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業の未供用区間である第2工区(L=1, 300m)は、平成24年3月に定めた「道路整備事業の見直し」に基づき、事業進捗を平成27年度まで見送っていたが、平成29年3月に定めた「今後の道路整備事業の進め方」に基づき、本事業を「今後、事業を実施する路線」に選定し、事業を再開させ、令和6年3月に定めた「今後の道路整備事業の進め方」の期間延長に基づき、事業の実施を継続している。 ・用地買収はすべて完了しており、引き続き工事を進め、事業進捗を図る。
---------------------	---

4 対応方針案

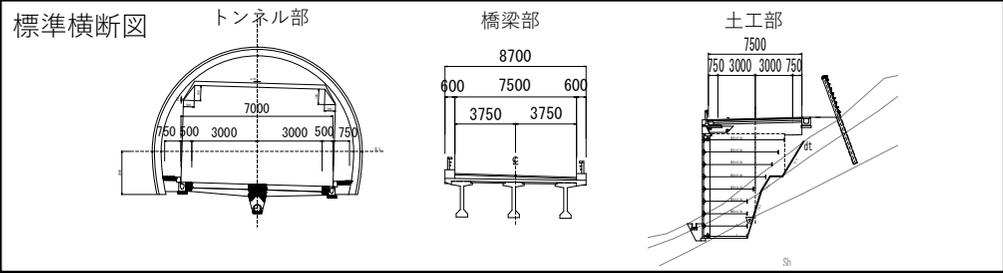
※該当する項目は、□を■に変更

対応方針	<input checked="" type="checkbox"/> 事業継続 <input type="checkbox"/> 事業中止 <input type="checkbox"/> 事業休止 <input type="checkbox"/> 事業再開
理由	<p>第1工区(全延長2, 150mのうち850m)は、平成20年3月に完成し、すでに供用を開始している。</p> <p>未供用の第2工区(残り1, 300m)には、落石等に備えた災害防除が必要な区間や線形不良及び幅員狭小な区間が残されており、第一次緊急輸送道路としての防災機能の強化と、安全かつ円滑な通行の確保が必要である。第2工区には、防災点検に基づく法面の要対策箇所(6箇所)が残されているが、本事業整備により解消される。</p> <p>また、本事業区間の整備により、京都市街地と京北地域とのアクセス性が向上することから、農林業や観光業の振興にも寄与するものと期待される。</p> <p>以上から、事業継続は妥当であると考えられる。</p>

【参考資料等】



幅員狭小箇所(離合困難)



標準横断面

トンネル部: 7000mm width, 750mm shoulder, 3000mm lane, 500mm curb, 750mm edge.

橋梁部: 8700mm total width, 600mm shoulder, 7500mm deck, 3750mm lane.

土工部: 7500mm total width, 750mm shoulder, 3000mm lane, 750mm curb.

完成イメージパース



①第1トンネル起点側坑



②中間土工部



③2号トンネル終点側坑



土砂崩れ(通行止め)

《客観的評価指標》

(1) 京都市基本計画における政策の体系と政策分野

※■は、下の(2)で有効と判断する評価指標がある政策分野

うるおい	■ 環境	<input type="checkbox"/> 人権・男女共同参画	<input type="checkbox"/> 市民生活とコミュニティ	■ 市民生活の安全	<input type="checkbox"/> 文化	<input type="checkbox"/> スポーツ	
活性化	<input type="checkbox"/> 産業・商業	■ 観光	<input type="checkbox"/> 農林業	<input type="checkbox"/> 大学	<input type="checkbox"/> 国際		
すこやか	<input type="checkbox"/> 子ども・若者支援	■ 障害者福祉	<input type="checkbox"/> 地域福祉	<input type="checkbox"/> 健康長寿	<input type="checkbox"/> 保健衛生・医療	<input type="checkbox"/> 学校教育	<input type="checkbox"/> 生涯学習
まちづくり	■ 危機管理・防災・減災	■ 歩くまち	<input type="checkbox"/> 土地・空間利用と都市機能配置	■ 景観	<input type="checkbox"/> 建築物	<input type="checkbox"/> 住宅	■ 道と公園・緑
	■ 消防・救急	<input type="checkbox"/> 暮らしの水					

(2) 事業の効果や必要性を評価するための指標 《道路・街路事業》

※該当する指標は、□を■に変更し、指標チェックの根拠を記入
計画変更等により、チェックが外れる場合は、■を□に変更し、外した理由を記入

政策分野とキーワード		指標(期待される効果) ※赤字は主要項目	指標チェックの根拠又は外した理由
うるおい	環境	環境の保全・回復	■ 自動車からのCO2(二酸化炭素)、NOX(窒素酸化物)、SPM(浮遊粒子状物質)の排出量削減 排出量の削減が見込まれる
		<input type="checkbox"/> 自動車からの騒音の低減効果	
		<input type="checkbox"/> 市街地における雨水浸透を推進、ヒートアイランド現象の緩和や健全な水循環系の回復に寄与	
		<input type="checkbox"/> 都市の緑化を推進、ヒートアイランド現象の緩和や地球温暖化防止に寄与	
市民生活の安全	交通事故防止の推進	■ 人と車両との分離等、安全な歩行空間を確保 バス停周辺の歩道設置	
		■ 走行位置の整理や見通し不良・視認性の改善等、交通安全性が向上 バイパス整備による線形改良	
活性化	観光	京都観光の振興	<input type="checkbox"/> 主要な観光スポットへのアクセスが向上 ■ 観光に関わる利便性向上やイメージアップ等、京都観光の振興に寄与 京都市街地と京北地域とのアクセス
		■ すべての人にとって安心・安全で利用しやすい、バリアフリーな公共施設を提供 バス停とその周辺における歩道設置	
すこやか	障害者福祉	ユニバーサルデザインの普及促進	<input type="checkbox"/> 通学路・児童の移動経路における交通安全性が向上、または新たな経路として利用
	学校教育	通学路の安全対策	
	危機管理・防災・減災	地域防災力の向上	■ 避難所・緊急避難場所・広域避難場所・避難救助拠点へのアクセスが向上 バイパス整備により、安全に避難所までアクセス可能となる
			■ 緊急輸送道路としての信頼性(災害時における安定的な通行等)が向上 バイパスの整備
			■ 主要な道路の通行止め時、代替道路として利用(リダンダンシー※の確保) ※多重化、代替手段・備えがある状態 国道367号、477号の代替道路
			<input type="checkbox"/> 事前通行規制区間(大雨による通行止め)等における通行止めの発生リスクの低下 北部クリーンセンター前～小野郷に未対策箇所が残存
	歩くまち	公共交通優先のまちづくり	■ 鉄道駅・バスターミナルへのアクセス向上や交通結節機能の強化等、公共交通利用を推進 京北地域から京都駅へのアクセス向上
■ 路線バスの時間信頼性(定時運行)の向上や新路線の設置等、バスの利便性が向上 バス停の集約と改良			
		歩いて楽しいまちづくり	

まちづくり		自転車利用環境の向上	<input type="checkbox"/> ゆとりある歩道幅員や路面の整備等、快適な歩行空間を提供	
			<input type="checkbox"/> 歩行者との分離や走行位置の見える化等、自転車の走行快適性が向上	
	土地・空間利用と都市機能配置	土地利用の促進	<input type="checkbox"/> 沿道での開発等、土地利用の促進	
		魅力と活力のある都市づくり	<input type="checkbox"/> 地域資源の活用等、特色あるまちづくりに貢献	
	景観	景観の保全・創出	■ 景観を阻害する要因の除去や自然・歴史的な景観との調和等、良好な景観の保全・創出	自然景観との調和(景観色に配慮した施工)
	道と公園・緑	円滑な移動・輸送の確保 都市環境の向上	■ 幅員狭小・離合困難な箇所等の解消、または当該箇所の回避が可能	バイパスの整備
			<input type="checkbox"/> 地域の主要渋滞箇所における渋滞緩和等、交通の混雑状況を改善	
			■ 高速道路・国道等と連携した広域的な道路ネットワークを形成、または補完路として利用	災害時に重要な役割を果たす緊急輸送道路としての役割が期待される。
			■ 移動時間の短縮・ばらつき(渋滞による遅延等)の縮小等、到着時間の信頼性が向上	走行環境の向上による効果
			■ 重要物流道路の整備等、安定的な物流・輸送の確保に寄与	バイパスの整備
<input type="checkbox"/> 自動車交通の分散・転換や渋滞緩和等、生活道路に流入する通過交通を抑制				
■ 歩行者との分離や路面の整備等、自動車の走行快適性が向上			線形改良	
消防・救急	安心・安全なまちづくり	■ 救急医療施設(二次)へのアクセスが向上	太秦病院	
		<input type="checkbox"/> 袋路や細街路、密集住宅地等で、消防・救急活動に支障がある地域の解消		
		<input type="checkbox"/> 火災時の延焼遮断帯としての効果		
くらしの水	雨に強いまちづくり	<input type="checkbox"/> 市街地における雨水浸透を推進、雨水の流出を抑制		
その他の効果や必要性 (事業特有の効果・新たな指標の追加等)		<input type="checkbox"/>		
		<input type="checkbox"/>		
		<input type="checkbox"/>		
特記事項				

《費用便益分析(B/C)》

※該当する項目は、□を■に変更

事業名	道路事業 一般国道162号(川東拡幅)
B/C算出	■ あり(実施) □ なし(省略または算出不可)

B/C算出: 前回評価時点から事業の効果・必要性・周辺環境に変化がなく、事業費の増加が10%以内の場合はB/C算出を省略、再評価の効率化を図る(省略の場合、下の(1)～(4)は前回評価時点の内容)

(1) 算出条件

基準年	令和6(2024)年
供用年	令和13(2031)年
対象期間	事業採択～供用後50年
算出手法	費用便益分析マニュアル

基準年: 評価実施年度

(2) 費用(Cost)

(単位: 億円)

	税込み	税抜き	現在価値
事業費	107.12	98.98	127.06
維持管理費	1.62	1.50	0.72
合計 (C)			127.78

現在価値: 将来又は過去(対象期間)における金銭の価値を現在(基準年)の価値に換算した額(税抜き)

(3) 便益(Benefit)

(単位: 億円)

便益額	331.53
現在価値 (B)	197.64

便益額: 事業実施に伴う各種効果のうち、現時点での知見により、計測及び金銭表現が可能な効果(便益)の対象期間における合計額

特記事項(B/C算出不可の理由等)

(4) 費用便益比

B/C	1.55
-----	------

令和6年度 京都市公共事業評価(再評価)事業調書

No. 3

1 事業の概要

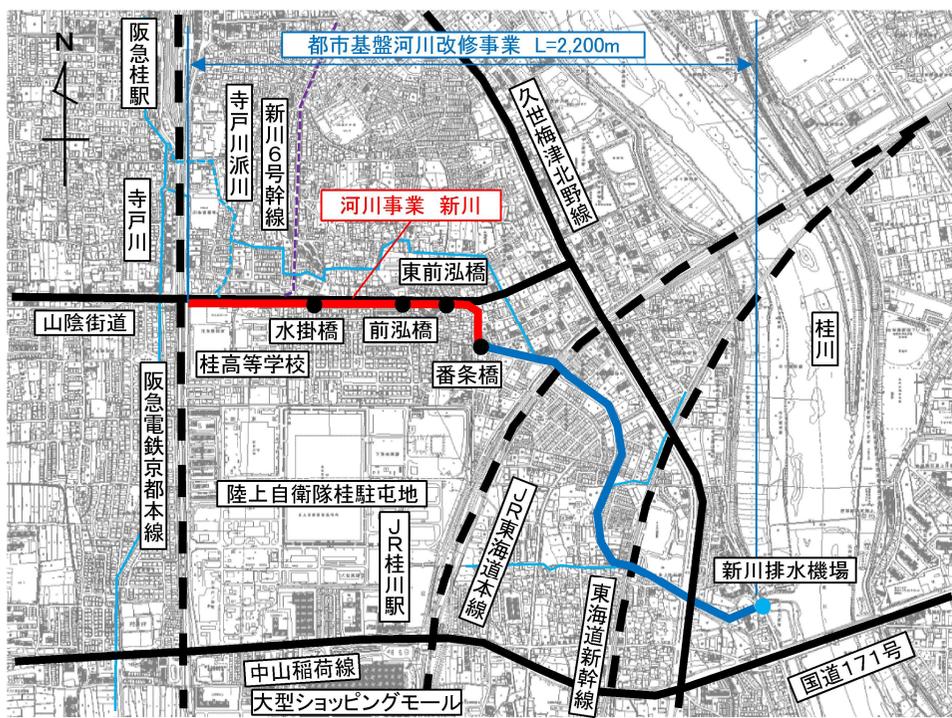
担当：建設局土木管理部河川整備課

事業名	河川事業 新川	事業区間	西京区 下津林前泓町(まえふけちょう)～西京区 川島菟田町(むしろでんちょう)
事業の目的 及び概要	<p>新川の安心・安全が向上します</p> <p>一級河川新川は、京都市西部、桂川右岸域に位置し、田畑や宅地の排水を集水し、桂川に合流する延長2.2km、流域面積3.4km²の河川である。 流域の都市化による出水量の増大に伴い、流域全体を見据えた治水安全度の向上が必要となっている。そのため、本事業は、河川断面を拡大する改修工事を行い、流下能力の向上を図るものである。</p>		
	延長又は面積：L=890m	代表的な幅員：W=6m	用地買収面積：A=1,108m ² 全体事業費：C=47.46億円

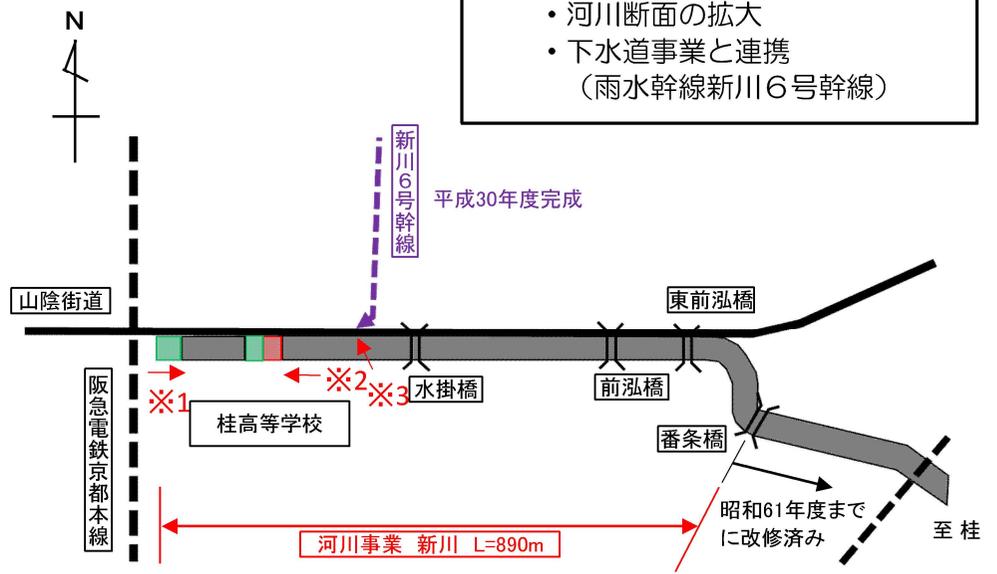
<主な事業効果>

- ・治水安全度の向上
- ・浸水被害リスクの低下

箇所図



概略図



<整備のポイント>

- ・河川断面の拡大
- ・下水道事業と連携
(雨水幹線新川6号幹線)

令和4年度まで
 令和5～6年度
 令和7年度以降

※：写真撮影箇所

事業名

河川事業 新川

上流端(※1)

令和5~6年度施工箇所(※2)

「新川6号幹線」接続箇所(※3)



2 事業の必要性等に関する視点

(1) 事業の進捗状況

都市計画決定	-	全体事業費		47.46 億円	令和4年度まで (決算額)	令和5年度 (決算見込み)	令和6年度 (予算額)	令和7年度以降	進捗率(実施数量) 完了/全体
事業採択	平成7(1995)年度	(内訳)	工事費	34.37 億円	30.13 億円	1.81 億円	1.29 億円	1.14 億円	河川改修 91.9 % 818m/890m
用地着手	平成10(1998)年度		用地費	8.75 億円	8.75 億円	0.00 億円	0.00 億円	0.00 億円	用地買収 100.0 % 1,108m ² /1,108m ²
工事着手	平成15(2003)年度		その他 (設計費等)	4.34 億円	4.25 億円	0.00 億円	0.00 億円	0.09 億円	—
完成予定	令和9(2027) 年度 (事業告示最終年度)	年度別事業費	—	43.13 億円	1.81 億円	1.29 億円	残事業費	—	
		進捗率 (執行事業費)	—	90.9 %	94.7 %	97.4 % (見込み)	1.23 億円	—	
進捗状況 事業計画の変更等	<ul style="list-style-type: none"> ・前回再評価時(令和元年度)の対応方針:「本河川の未改修区間である上流部では、浸水被害の防除をより一層推進するため、引き続き河川改修を着実に進めていく必要があることから、安全面及び緑化等の環境面に配慮しながら、更なる事業進捗を図る。」 ・下流側から順次、護岸工事等を実施しており、用地買収はすべて完了している。令和元年から5年度にかけては、桂高等学校北側において事業進捗を図り、令和5年度末時点で延長890mのうち818mまでの工事を実施している。 ・関連する下水道事業として、新川6号雨水幹線が平成30年度に完成し、新川に接続されている。 								

(2) 事業を巡る社会経済情勢や地域状況等の変化

<ul style="list-style-type: none"> ・1時間あたり50mm以上の短時間の強い雨の頻度が、長期的に増加傾向にある(アメダス全国約1,300地点)。 ・西京区における宅地面積の割合について、昭和52年は全体の約9.5%、令和5年は全体の約20.8%を占めている。また、西京区における建物数の変化について、昭和53年は30,600棟、平成30年は70,280棟であり約2.3倍に増加している。 ・地域状況の変化として、平成29年度の阪急京都線連続立体交差の完成及び平成20年度のJR桂川駅や平成26年度の大型ショッピングモールの開業などがある。

(3) 上位計画における事業の位置付け等

計画名	事業の位置付け(事業によって推進する施策・取組)
はばたけ未来へ！京プラン2025(京都市基本計画)	雨に強いまちづくりを推進する河川・雨水幹線の整備等
京都市水共生プラン	総合的な治水対策による治水安全度の向上
京都市都市計画マスタープラン	河川の改修や雨水幹線の整備等による浸水対策の推進
京都市河川整備方針	一級河川の整備～国や京都府と進める川づくり～

(4) 指標による評価

(便益と費用の単位:億円)

事業の投資効果	費用便益分析 (B/C) = 42.67	便益(B) = 2,871.77	費用(C) = 67.30
---------	----------------------	------------------	---------------

3 事業進捗の見込みの視点

事業の実施のめど 進捗の見通し等	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、用地買収が完了しており、令和9年度の工事完成を目指して、引き続き進捗を図る。
---------------------	--

4 対応方針案

※該当する項目は、□を■に変更

対応方針	<input checked="" type="checkbox"/> 事業継続 <input type="checkbox"/> 事業中止 <input type="checkbox"/> 事業休止 <input type="checkbox"/> 事業再開
理由	<p>本事業は、河川断面を拡大する等の河川改修を行い、流下能力の向上を図るものである。 本河川の流域では、市街化が進行していることや、近年、水災害が激甚化・頻発化していることから、河川改修による事業効果を早期に発現させる必要がある。 以上のことから、本事業の事業継続は妥当であると考える。</p>

【参考資料等】

周辺の土地利用の変化(昭和50年→令和2年)

標準断面図

《客観的評価指標》

河川事業 新川

(1) 京都市基本計画における政策の体系と政策分野

※■は、下の(2)で有効と判断する評価指標がある政策分野

うるおい	■ 環境	<input type="checkbox"/> 人権・男女共同参画	<input type="checkbox"/> 市民生活とコミュニティ	<input type="checkbox"/> 市民生活の安全	<input type="checkbox"/> 文化	<input type="checkbox"/> スポーツ	
活性化	<input type="checkbox"/> 産業・商業	<input type="checkbox"/> 観光	■ 農林業	<input type="checkbox"/> 大学	<input type="checkbox"/> 国際		
すこやか	<input type="checkbox"/> 子ども・若者支援	<input type="checkbox"/> 障害者福祉	<input type="checkbox"/> 地域福祉	<input type="checkbox"/> 健康長寿	<input type="checkbox"/> 保健衛生・医療	<input type="checkbox"/> 学校教育	<input type="checkbox"/> 生涯学習
まちづくり	■ 危機管理・防災・減災	<input type="checkbox"/> 歩くまち	■ 土地・空間利用と都市機能配置	<input type="checkbox"/> 景観	<input type="checkbox"/> 建築物	<input type="checkbox"/> 住宅	<input type="checkbox"/> 道と公園・緑
	<input type="checkbox"/> 消防・救急	■ 暮らしの水					

(2) 事業の効果や必要性を評価するための指標 《河川事業》

※該当する指標は、□を■に変更、指標チェックの根拠を記入
計画変更等により、チェックが外れる場合は、■を□変更、外した理由を記入

政策分野とキーワード		指標(期待される効果) ※赤字は主要項目		指標チェックの根拠又は外した理由
うるおい	環境	環境の保全・回復	■ 多様な生物が生息・生育・繁殖する自然環境の保全・再生 <input type="checkbox"/> 都市の緑化を推進、ヒートアイランド現象の緩和や地球温暖化防止に寄与	河床を土で埋め戻し
	市民生活とコミュニティ	地域コミュニティの活性化	<input type="checkbox"/> 地域の交流機会が増える、居場所や活動の場として利用 <input type="checkbox"/> 地域活動への参加を促す、きっかけ・仕組みづくりに寄与	
活性化	観光	京都観光の振興	<input type="checkbox"/> 観光に関わる利便性向上やイメージアップ等、京都観光の振興に寄与	
	農林業	事業環境の安定	■ 浸水被害の発生リスクの低下、経営の安定に寄与 <input type="checkbox"/> 農林業関連施設の更新等、作業環境の安定に寄与	10年に1度の降雨確率で発生する大雨に対応
うるおい	危機管理・防災・減災	《水害の被害指標》	■ 過去に発生した浸水被害 《1回》	
			■ 浸水想定区域の面積推計 《125.03ha》	想定条件: 10年に1度の降雨確率で発生する大雨
			■ 浸水想定区域の人口推計 《9,927人》	
			■ 浸水想定区域の災害時要援護者数の推計 《2,832人》	
			<input type="checkbox"/> 浸水想定区域の医療・社会福祉・防災拠点施設 《0箇所》	
			■ 浸水想定区域の主要な道路・鉄道 《市道山陰街道、市道久世梅津北野線、府道中山稻荷線》	
歩くまち	歩いて楽しいまちづくり	<input type="checkbox"/> 河川沿いの散策道の整備等、水辺の歩行空間を提供		
土地・空間利用と都市機能配置	土地利用の促進	■ 浸水被害の発生リスクの低下、土地利用の促進	10年に1度の降雨確率で発生する大雨に対応	

まちづくり		魅力と活力のある都市づくり	<input type="checkbox"/> 地域資源の活用等、特色あるまちづくりに貢献	
	景観	景観の保全・創出	<input type="checkbox"/> 景観を阻害する要因の除去や自然・歴史的な景観との調和等、良好な景観の保全・創出	
	道と公園・緑	都市環境の向上	<input type="checkbox"/> 事業区域内の道路・公園等のインフラを再整備、都市環境の向上に寄与	
	消防・救急	安心・安全なまちづくり	<input type="checkbox"/> 消火用水として利用等、火災時の消防活動をサポート	
			<input type="checkbox"/> 火災時の延焼遮断帯としての効果	
	くらしの水	雨に強いまちづくり 《整備計画の指標》 水と共に生きるまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 流域の治水安全度が向上	10年に1度の降雨確率で発生する大雨に対応
			<input checked="" type="checkbox"/> 整備目標(計画流量)に対する、整備前の流下能力 《最も厳しい部分で、約26%》	
<input checked="" type="checkbox"/> 浸水被害の発生リスクの低下、不安の軽減効果			10年に1度の降雨確率で発生する大雨に対応	
<input type="checkbox"/> 大雨時に雨水を一時的に貯留等、雨水の流量調整効果				
<input checked="" type="checkbox"/> 関連する雨水幹線や下水道の整備と連携、総合治水対策を推進			下水道雨水幹線新川6号幹線	
		<input type="checkbox"/> 親しみやすい水辺空間の創出		
その他の効果や必要性 (事業特有の効果・新たな 指標の追加等)		<input type="checkbox"/>		
		<input type="checkbox"/>		
		<input type="checkbox"/>		
特記事項				

《費用便益分析(B/C)》

※該当する項目は、□を■に変更

事業名	河川事業 新川
B/C算出	<input type="checkbox"/> あり(実施) <input checked="" type="checkbox"/> なし(省略または算出不可)

B/C算出: 前回評価時点から事業の効果・必要性・周辺環境に変化がなく、事業費の増加が10%以内の場合はB/C算出を省略、再評価の効率化を図る
(省略の場合、下の(1)～(4)は前回評価時点の内容)

(1) 算出条件

基準年	令和元(2019)年
供用年	令和6(2024)年
対象期間	事業採択～供用後50年
算出手法	治水経済調査マニュアル(案)

基準年: 評価実施年度

(2) 費用(Cost)

(単位: 億円)

	税込み	税抜き	現在価値
事業費	47.46	44.60	67.20
維持管理費	0.31	0.28	0.10
合計 (C)			67.30

現在価値: 将来又は過去(対象期間)における金銭の価値を現在(基準年)の価値に換算した額(税抜き)

(3) 便益(Benefit)

(単位: 億円)

便益額	5,237.46
現在価値 (B)	2,871.77

便益額: 事業実施に伴う各種効果のうち、現時点での知見により、計測及び金銭表現が可能な効果(便益)の対象期間における合計額

特記事項(B/C算出不可の理由等)

(4) 費用便益比

B/C	42.67
-----	-------